

セルフ・ネグレクト研究

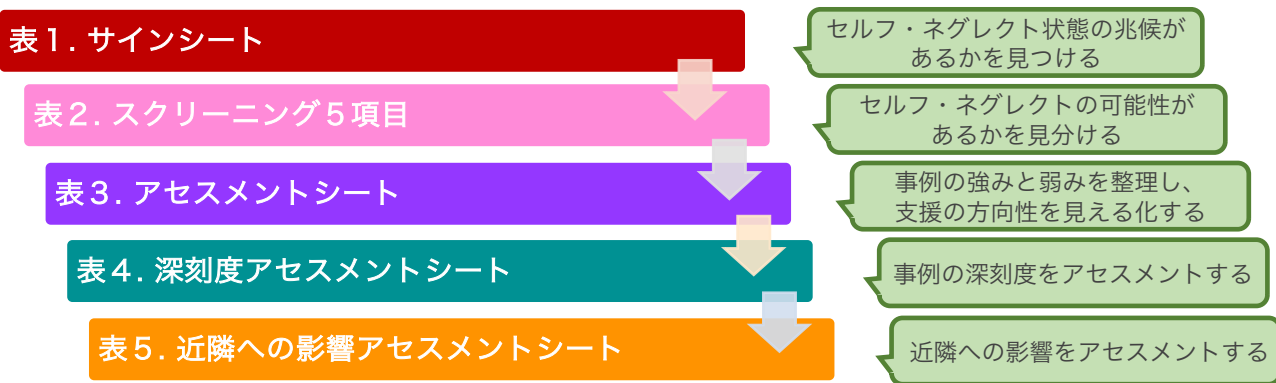
アセスメント・支援ツールのご紹介

- 【文部科学省科学研究費助成事業 研究成果】研究代表者 岸 恵美子（東邦大学看護学部・東邦大学大学院看護学研究科 教授）
- ・若年のセルフ・ネグレクトに対応するアセスメントツールと介入プログラムの開発，平成28～30年度，科学研究費助成事業 基盤研究（B）
 - ・セルフ・ネグレクト高齢者への効果的な介入・支援とその評価に関する実践的研究，平成24～28年度，科学研究費助成事業 基盤研究（B）

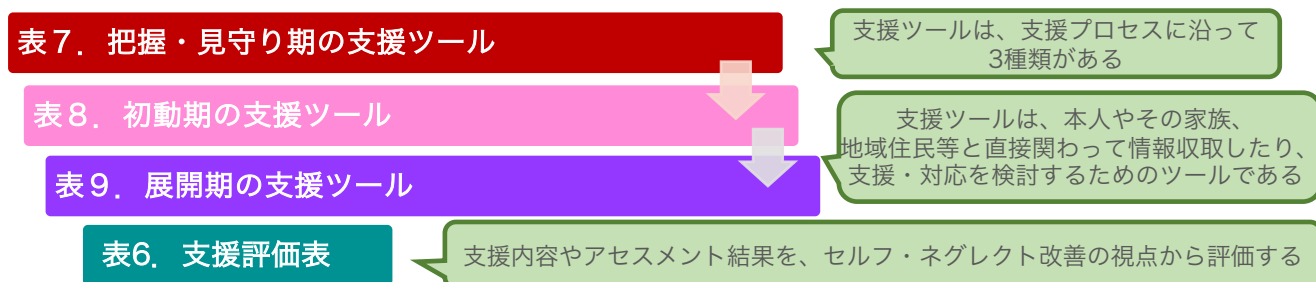
アセスメントツール・支援ツールの位置づけ

- ・個別支援の展開時に用いるツールとして、5種類の「アセスメントツール」と3種類の「支援ツール」を作成した。
- ・アセスメントツールは、現状から“アセスメントして判断”するために必要な情報を整理し、現状を見える化できることが特徴である。
- ・支援ツールは、本人やその家族、地域住民等と直接関わって情報収集したり、支援・対応を検討するためのツールである。
- ・支援ツールは、セルフ・ネグレクトの人やその家族に対してどのような支援を実施するのか、相談者や近隣住民にどのような姿勢・態度で対応するのかといった、具体的な支援方法のプロセスが示されている。
- ・アセスメントツール・支援ツールは、事例把握・現状把握から支援計画の立案、実施、評価、モニタリング、計画の見直しというPDCAサイクルの中で活用する。

セルフ・ネグレクトのアセスメントツールの構造



セルフ・ネグレクトの支援ツールの構造



セルフ・ネグレクトのアセスメント・支援ツール 詳しい情報はこちら

岸恵美子 編 (2021) セルフ・ネグレクトのアセスメントとケア ツールを活用したゴミ屋敷・支援拒否・8050問題への対応, 中央法規出版.

<https://www.chuohoki.co.jp/products/medical/8331/> (書籍のページにリンクしています)

表1 セルフ・ネグレクトサインシート

記入者：

作成：

年

月

日

*該当する項目にチェックを入れる

本人の状況	家屋および家屋周囲の状況	社会との交流
☐ 1. 無力感、あきらめ、投げやりな様子がみられる。	☐ 1. テーブルや台所に汚れた食器類が積み重なっている。	☐ 1. ここ3年くらいの間に、一人暮らしになった。
☐ 2. 暴言を吐く、無表情な顔つきなど、今までと急に変わった様子がある。	☐ 2. トイレ、台所、浴室など使えない場所がある。	☐ 2. ここ3年くらいの間に、家族、特に配偶者の死に直面した。
☐ 3. うす汚れた下着や衣服を身につけているときがある。	☐ 3. [65歳以上のみ] 仏壇の手入れがされていない。	☐ 3. 近隣との日常会話が減った。
☐ 4. 服装や身だしなみに関心がなくなってきた。	☐ 4. 室内を掃除した様子がない。	☐ 4. これまでに近隣とのトラブルがある。
☐ 5. ゴミをうまく分別できなくなった。または指定日にゴミを出さなくなった。	☐ 5. 中に入れてもらえない部屋がある（開かずの間がある）。	☐ 5. 今まで挨拶していたのに、挨拶しなくなった（挨拶しても反応が薄い・挨拶を返さない）。
☐ 6. 薬を飲んでいないなど、治療を中断しているような言動がある。	☐ 6. 庭や家屋の手入れがされていない（雨どい、門が壊れたまま放置されている）。	☐ 6. 地域行事への参加が急に減ってきた。またはこれまでにほとんど参加したことがない。
☐ 7. 痩せてきたり体調が悪そうにみえる。	☐ 7. 郵便受けに郵便や新聞がたまっている。	☐ 7. 最近、自分の周囲に関して無関心になった。または以前から関心がない。
☐ 8. 痛みや病気のために日常生活の動きが制限されているようにみえる。	☐ 8. 同じ洗濯物が干したままになっている。洗濯機が使えない。	☐ 8. 何を聞いても「いいよ。いいよ」と言って遠慮をし、世間や周囲に気兼ねする態度がみられる。
☐ 9. 昼間からアルコールを飲み続けている様子がみられる。	☐ 9. 晴れた日なのに雨戸やカーテンがしまったままになっている。	☐ 9. 今まであった親族・別居家族の出入りがみられない。
☐ 10. [50代以下のみ] 全身倦怠感、疲労感、「身体がしんどい」「何となく身体がだるい」「ちょっとしたことですぐに疲れやすい」などの訴えがある。	☐ 10. 昼夜問わず、室内の照明がついていない。または昼でも照明がついている。	☐ 10. 否定されたり拒絶されるのを極端に恐れているようにみえる。
☐ 11. [50代以下のみ] 仕事が長続きしない。少なくともこの1年は仕事をしていない。	☐ 11. 玄関周りや室内の床に小銭が落ちている。	☐ 11. 早朝から深夜まで自宅にいない。長時間労働の様子がみられる。
☐ 12. [65歳以上のみ] 人目を避けて夜間に買い物や外出をすることが多い。	☐ 12. 敷地内や家屋内にゴミや物をため込んでいる様子がみられる。	☐ 12. 親が本人のひきこもりや精神面の相談をしていた履歴がある。
☐ 13. 終始怒鳴り口調であるなど挑発的行動がみられる。	☐ 13. ブルーシートで覆うなどため込んだ物を隠している様子がある。	☐ 13. こちらの姿がみえると隠れるなど対面を避ける傾向にある。
☐ 14. 問題行動を指摘しても正当化した理由を主張する。	☐ 14. 頻繁に荷物が届くなど買い物も多くしている様子がある。	☐ 14. 外出している様子がない。姿を見かけない。
☐ 15. こだわりが強く、会話がかみ合わないことがたびたびある。		
☐ 16. ギャンブルやパチンコに毎日のように通っている様子がみられる。		
☐ 17. 家族の世話や介護をするこ		
☐ とに過剰なほど熱心であるようにみえる。		

表 2 セルフ・ネグレクトのスクリーニング 5 項目

記入者： 作成： 年 月 日

* 専門職記入用（訪問時に使用）

概念	スクリーニング項目		
中核概念	健康行動	治療が必要な慢性疾患を放置しており、健康に悪影響を及ぼしている	はい・いいえ
		「はい」の状況：	
	個人衛生	入浴をしていない、服を着替えていないなどで、身体が不衛生である	はい・いいえ
		「はい」の状況：	
	住環境	普段よく使用する空間にゴミや不用品が置かれ、生活に支障がある	はい・いいえ
		「はい」の状況：	
付随概念	サービスの拒否	必要なサービスを繰り返し進めても拒否する	はい・いいえ
		「はい」の状況：	
	地域からの孤立	地域の中でトラブルがあるなど、地域から孤立している	はい・いいえ
		「はい」の状況：	

※ 1 項目でも当てはまる場合には、**セルフ・ネグレクトの可能性**があるため関係者間で総合的に検討する。
※セルフ・ネグレクトの可能性があると考えられる場合→「表 3 セルフ・ネグレクトアセスメントシート」へ。

表3 セルフ・ネグレクトアセスメントシート

記入者：

作成： 年 月 日

強み領域		弱み領域	
かなりある（最大限に存在）＝2点、ややある（中等度に存在）＝1点、ない（最低限に存在）＝0点		かなりある（最大限に存在）＝2点、ややある（中等度に存在）＝1点、ない（最低限に存在）＝0点	
健康行動（充足・適切）	点数	点数	健康行動（不足・欠如）
1. 治療が必要な慢性疾患や症状の治療に通っている			1. 治療が必要な慢性疾患や症状を放置し、受診しない
2. 自身で行うべき必要な医療的なケアを行う			2. 自身で行うべき必要な医療的ケアを行っていない
3. 健康が障害されないよう生活している			3. 生命にかかわるような日常生活の注意が守られていない
4. 服薬など療養上必要とされる指導を遵守している			4. 服薬など療養上必要とされる指導が守られていない
5. 年齢相応の体型で、水分や食事を摂取している			5. 痩せており、必要な食事をとっていない
個人衛生（清潔）	点数	点数	個人衛生（不潔）
6. 入浴や清拭をしており、身体の汚れや悪臭はない			6. 入浴や清拭を怠っており、身体の汚れや悪臭がある
7. 清潔な衣類を着用している			7. 汚れて不潔な衣類を着用している
8. 髪・髭は整容され爪が切っている			8. 髪・髭の整容をせず、爪が伸びている
9. 洗顔や歯磨きをしている			9. 洗顔や歯磨きをしていない
住環境（良好）	点数	点数	住環境（劣悪）
10. 家屋内にゴキブリなどの害虫は見当たらない			10. ゴキブリなどの害虫が発生している
11. 屋内に腐った食べ物や生ゴミは放置されていない			11. 屋内に腐った食べ物や生ゴミが放置され悪臭がする
12. 屋内のペット類は適切に飼われている			12. 屋内にペット類が放置されており不衛生な状態である
13. 排泄物や排泄物で汚れた衣類は片付けられている			13. 排泄物や排泄物で汚れた衣類が放置されている
14. 電気・ガス・水道などのライフラインは止まっていない			14. 電気・ガス・水道などのライフラインが止まっている
15. トイレや台所、浴室などは使用できる			15. トイレや台所、浴室などが使用できない
16. 家屋内の物は適切な場所に置かれている			16. 家屋内に物が放置され、足の踏み場がない
17. 窓ガラスやドアは壊れていない（ベニヤ板などで補修している） ^{*1}			17. 窓ガラスやドアが壊れたままである（ベニヤ板などで補修している） ^{*1}
18. 屋外のゴミや不用品は片付けられている			18. 屋外にゴミや不用品があふれている
19. 家屋は手入れがされ樹木も剪定されている			19. 家屋は老朽化し樹木が敷地外にまで鬱蒼と茂っている

強み領域		弱み領域	
サービス（応諾・受諾・利用・活用）	点数	点数	サービス（拒否）
20. 医療が必要であれば，受診の勧めに応じる			20. 医療が必要な状態だが，受診を勧めても拒否する
21. 介護保険の利用ができる状態であれば利用の勧めに応じる			21. 介護が必要な状態だが，介護保険利用を勧めても拒否する
22. 生活保護が必要であればその勧めに応じる			22. 困窮しているが，生活保護を申請しない
23. 必要な保健・福祉サービスには応じる			23. 必要な保健・福祉サービスを拒否している
社会（交流・外出）	点数	点数	社会（孤立・隠遁）
24. 他者との関わりを受け入れる			24. 他人との関わりを拒否する
25. 近隣住民と関わる			25. 近隣住民との関わりがない
26. 外出している			26. 閉じこもり状態である
27. 近隣住民との間でのトラブルはない			27. 近隣住民との間でトラブルが発生している
金銭・財産管理（適正）※ ²	点数	点数	金銭・財産管理（不足・欠如）※ ²
28. 生活費を嗜好品やギャンブルに費やすことはない			28. 生活費を嗜好品やギャンブルに費やす
29. 契約などの金銭にかかわる手続きを行っている			29. 契約などの金銭にかかわる手続きができない
30. お金や通帳などの貴重品は管理されている			30. お金や通帳などの貴重品が管理されていない
31. 家賃や公共料金を滞りなく支払っている			31. 家賃や公共料金が支払われていない
合計			合計

アセスメント項目の点数の付け方

- ・強み，弱み領域のそれぞれの項目すべてに点数をつける。
- ・個人の変化をみるために，継続的，定期的に評価をする。
- ・不明の場合はリスクでもあるので弱みに 2 ポイント，強みは 0 ポイント。明らかになったら判断する。医療や治療が必要なければ強みに 2 点を入れる。

ex) 治療が必要な慢性疾患の存在が不明な場合は弱みに 2 点を加点，強みは 0 点。慢性疾患がなければ強みに 2 点加点

自身で行うべき医療的ケアの存在が不明な場合は弱みに 2 点を加点，強みは 0 点。医療的ケアの必要なければ強みに 2 点加点

服薬が必要かどうか不明な場合は弱みに 2 点を加点，強みは 0 点。服薬が必要なければ強みに 2 点加点

※¹ 窓ガラスやドアが壊れたままであっても，ベニヤ板などで補修している場合は弱みにも強みにも 1 点。

※² 金銭・財産管理の実態がわからない場合は弱み領域に 2 点を入れる。実態がわかったら判断して記入する。

表 4 セルフ・ネグレクト深刻度アセスメントシート

記入者： 作成： 年 月 日

		内 容
緊急介入支援	レベル A (最重度)	自身の生命・身体・生活に著しい危険が生じている 意識混濁、重度の褥そう、重い脱水症状、脱水症状の繰り返し、栄養失調、全身衰弱、下肢や顔面の重度のむくみ、極端な痩せ、頻脈、徐脈、脈が触れにくい、不規則な呼吸、高血圧、低血圧、高血糖、低血糖、発熱、自殺（希死）念慮 その他（ ）
		家屋の老朽化が進み破壊され人が住める状態ではない
		ライフライン（電気、ガス、水道）が途絶えており、代替手段がなく、生命維持に必要な最低限の生活に支障をきたしている
相談・調整支援・社会資源活用	レベル B (重度)	自身の生命・身体・生活に著しい影響が生じている 軽度の脱水、低栄養・低血糖の疑い、入退院の繰り返し、痩せが目立つ、頭痛、下痢 その他（ ）
		重度の慢性疾患があるのに医療を拒否しているため、生命に関わるような重大な結果が生じる恐れの高い状態がみられる
		腐敗した生ゴミからウジなどの害虫が発生している ペット類の糞便が散在している
要見守り・状況確認	レベル C (軽度)	自身の生命・身体・生活に影響が生じている 影響は部分的であるか、顕在化していない状態である 経済的困窮により、最低限の生活（衣食住等）に支障をきたしている 家屋内外にゴミや不用品が堆積している 住居のドアなどが壊れたままになっている 〈以下の場合は、急激にレベル A に移行しやすいので留意する〉 薬物やアルコール依存症、認知症、うつ病などの既往や現病歴 配偶者の死などストレスが高いライフ・イベント サービスを拒否したり、近隣・社会から孤立している

本事例のレベル
(該当箇所に○)

○レベル A	緊急保護、医療施設への入院を検討する。
○レベル B	入院、入所、定期的なサービス・支援を検討する。
○レベル C	定期的な状況確認・支援などモニタリング計画を立案する。緩やかな見守り、入院・入所の可能性の検討を行う。

レベル A
レベル B
レベル C

※ 1 項目以上該当ありの場合、高いレベルの条件に従い支援を行う。

表 5 セルフ・ネグレクトによる近隣への影響アセスメントシート

記入者： 作成： 年 月 日

* 本人がセルフ・ネグレクトである可能性が高い場合に、必要がある場合のみ用いる。

		内 容	備考（状況を記入する）
近隣への影響が 高度に存在する	レベル A （最重度）	• 身体症状（頭痛、吐気など）を誘発する程の強い悪臭が常にある。 • 害虫やネズミ等が大量に発生し、周囲にも行き交う程である。 • 家屋そのものが倒壊する危険性がある。 • 堆積物が重層的に積み重なっており、平時においても敷地を超えて倒壊する危険性がある。 • 堆積物や樹木が道路を塞いでおり、交通の妨げになっている。 • 堆積物の近くで喫煙やストーブ・コンロ等を使用しており、失火の危険性がある。	
近隣への影響が 中等度に存在する	レベル B （重度）	• 悪臭は常にあるが、身体症状（頭痛、吐気など）を誘発する程ではない。 • 害虫やネズミ等が敷地内に発生しているが、近隣に行き交う程ではない。 • 堆積物が重層的に積み重なっており、強い地震や台風のとき等に敷地を越えて倒壊する危険性がある。 • 配線器具の劣化やコンセント部の埃の堆積、電化製品の加熱等があり、すぐにではないが失火する危険性がある。	
近隣への影響はない・ もしくは存在するが軽度である	レベル C （軽度）	• 悪臭はない。もしくは風向きや時間帯等により感じられる程度である。 • 害虫やネズミ等の発生はない。もしくはあっても少なくとも家屋内のみである。 • 堆積物は積み重なっていない。もしくは積み重なってあるが敷地を越える倒壊の危険性はない。 • 失火の危険性はない。	

本事例のレベル
（該当箇所に○）

○レベル A	本人への支援・対応とともに、近隣住民への支援・対応も検討する。
○レベル B	近隣住民との調整を図りながら、定期的な状況確認・支援などモニタリング計画を立案する。
○レベル C	緩やかな見守りを続けていく。

レベル A

レベル B

レベル C

※ 1 項目以上該当ありの場合、高いレベルの条件に従い支援を行う。

表6 支援評価票

支援評価票	
記入日： 年 月 日 記入者：	
1. 支援目標・計画	
2. 支援内容（複数回答可）	
☐ 本人への支援 ☐ 家屋および家屋周辺状況等の現地確認 ☐ 家族・親族への支援 ☐ 近隣・地域住民に向けた支援 ☐ 関係機関との連携 ☐ 見守り ☐ その他（ ）	
3. モニタリング：支援目標に対して、どの程度到達したか	
健康行動（充足・適切／不足・欠如）	
個人衛生（清潔／不潔）	
住環境（良好／劣悪）	
サービス（応諾・受諾／拒否）	
社会（交流・外出／孤立）	
金銭・財産管理（適正／不足・欠如）	
4. 総合評価	
深刻度	☐ レベル A ☐ レベル B ☐ レベル C （ ）
5. 今後の支援目標・支援内容	

表 7 把握・見守り期の支援ツール

記入者： 作成： 年 月 日

把握・見守り期	
住民や関係機関等からの相談に応じて、課題の把握や本人に会うことを目標とする時期 ＊本人が支援を求めない場合でも、周囲に支援・対応していく	
本人への支援	☐ 1. 断続的に訪問して顔を覚えてもらい、信頼関係を築く
	☐ 2. 本人・家族が訪問の意図をどのように理解しているかを把握する
	☐ 3. 本人の心身の健康状態を把握し、受診の必要性がないかを見極める
	☐ 4. 本人の考えやこだわりを確認し、認知機能の状況を見極める
	☐ 5. 継続して関わりをもち、本人の困り事を把握する
	☐ 6. 本人の話から、家族・親族と本人との関係性を見極める
	☐ 7. 不在の場合は本人あてにメモ等を残し、反応をみる
	☐ 8. 訪問時間帯を変えるなど、本人に会えるよう時間を見計らい接触する機会をうかがう
	☐ 9. ライフライン（電話・電気・ガス・水道など）を確認し生活上のリスクを確認する
家族・親族への支援	☐ 10. 家族・親族から経過を把握し、本人との関係性等を確認する
	☐ 11. 家族・親族から本人の性格等の情報を得る
	☐ 12. 同居家族の心身のリスクの有無を把握する
	☐ 13. 家族・親族からキーパーソンとなる人物を探す
	☐ 14. 本人とコンタクトがとれない場合、同居の家族あてのメモを残す
近隣・地域住民に向けた支援	☐ 15. 本人および家族との接触が図れない場合は、関係のある別居親族の情報を得る
	☐ 16. 相談者（苦情者・通報者）に具体的な困り事を確認する
	☐ 17. 関わりのある近隣から本人の様子について情報を得る
家屋および家屋周辺状況等の現地確認	☐ 18. 本人と近隣住民との関係性を把握する
	☐ 19. 玄関先の放置物、害虫の発生、悪臭の有無等を確認する
	☐ 20. 庭の樹木の繁茂や近隣への影響の有無を確認する
	☐ 21. 堆積物の種類を確認し、病気や障害の可能性を推察する
	☐ 22. 食品の残骸・残飯のため込みから、低栄養等のリスクを見極める
	☐ 23. 敷地内の見取り図、近隣住居等の配置などを図示し記録する
	☐ 24. 放置物による放火や火災発生の危険性を推測する
関係機関との連携	☐ 25. 放置物による、公道・私道の通行上の危険の有無を確認する
	☐ 26. 関係機関へ、本人・家族・親族への支援・対応歴を確認する
	☐ 27. ケース会議により情報を共有し、支援の方向性を協議する
	☐ 28. 市区町村の担当課へ情報提供し、支援の協力を依頼する
	☐ 29. 同居家族の心身のリスクについて情報を把握し、必要なサービスを検討する
	☐ 30. 該当住居が空き家の場合には、市区町村の担当課へ連絡を行う

表 8 初動期の支援ツール

記入者： 作成： 年 月 日

初動期		
相手に合わせた支援方法を提示し、会話できるような信頼関係の構築を目標とする時期		
本人への支援	☐	1. 定期的に訪問して顔を覚えてもらい、信頼関係を築く
	☐	2. 関わりを求めない場合には、継続訪問により見守りを行い本人の状況の変化を確認する
	☐	3. 外見や清潔保持の状況等から、ADL やセルフケアの状況を確認する
	☐	4. 堆積物に対する本人なりの考えを確認する
	☐	5. 片付けなどで困り事がないか、本人の訴えを聞き出し支援の糸口を探る
	☐	6. 人間関係や失業等、きっかけとなる過去のライフイベントの有無を確認する
	☐	7. サービス導入後の生活が具体的にイメージできるように話をする
	☐	8. 在宅時間を見計らって訪問し、関わりが途切れないようにする
	☐	9. 近隣とのトラブルがある場合は、本人が理解しやすいように具体的に説明し認識してもらう
	☐	10. 家屋の片付けについて、業者の利用を提案する
	☐	11. 他者とのトラブルに対する訴えを聞き、改善策を提案する
家族・親族への支援	☐	12. 家族・親族より、本人の成育歴等の情報を得る
	☐	13. 家族・親族に、本人に対する支援への協力を依頼する
	☐	14. 本人および家族との接触が図れない場合は、別居親族へ連絡をとる
	☐	15. 他職種との同行訪問によりサービス導入の具体的な手続きを行う
	☐	16. 家族・親族と業者の作業への立ち会い予定を調整する
	☐	17. 家族・親族からキーパーソンとなる人物を探す
	☐	18. キーパーソンとなる家族・親族へ支援計画を説明し了解を得る
近隣・地域住民に向けた支援	☐	19. 近隣住民へ本人への対応を継続していることを示し理解を得る
	☐	20. 近隣へのゴミや堆積物の越境が変化していないかを確認する
	☐	21. 関わりのある近隣住民から、本人に関係する困り事を確認し住民のニーズを把握する
家屋および家屋周辺状況等の現地確認	☐	22. 敷地内の堆積物、悪臭の有無を確認する
	☐	23. 定期的に現地訪問し、敷地内の環境の変化を確認する
	☐	24. 室内から家屋の老朽状態を確認する
	☐	25. 室内の堆積物による転倒のリスクを確認する
関係機関との連携	☐	26. 市区町村のサービス利用に向けて、担当課への協力を依頼する
	☐	27. 本人が利用している施設や担当者から追加情報を得る
	☐	28. ケース会議で支援方針を協議し、今後の役割分担を明確にする
	☐	29. 関係機関と互いに顔が見える関係を重視し、逐次情報共有を図る
	☐	30. 本人が自立可能なことから支援する方法を検討していく
	☐	31. 本人の精神状況について、保健・医療・福祉職の意見を把握する

表 9 展開期の支援ツール

記入者： 作成： 年 月 日

展開期		
支援関係を構築しながら課題解決、生活の再構築、再発防止への対応、地域づくりを目標とする時期		
本人への支援	☐	1. 継続訪問して、ため込み状況の変化を追跡する
	☐	2. 訪問時にライフラインを確認して、生活状況の変化の有無を把握する
	☐	3. 本人の心身の状態に変化がないかを確認し、支援のタイミングをとらえていく
	☐	4. 支援側からの提案を受け入れてもらえるように、定期的に訪問し信頼関係を維持する
	☐	5. 本人の考えやこだわりに対し、受容する姿勢を示し信頼関係を維持する
	☐	6. 本人の困っている部分から対応するように、言葉を選び、片付けの流れをつくる
家族・親族への支援	☐	7. 同居家族にキーパーソンが不在の際は、別居親族からキーパーソンとなる人を見定める
	☐	8. 家族・親族がどこまで本人の生活を支えられるかを見極める
	☐	9. 本人の支援に関する家族の意向を確認する
	☐	10. 同居の子どもに、必要時、支援・対応の内容を説明する
	☐	11. 家族間の土地・家屋等の相続トラブル発生の可能性を推測する
	☐	12. キーパーソンと業者が円滑な手続きを行えるように仲介する
近隣・地域住民に向けた支援	☐	13. 近隣との関係が悪化していないかを確認する
	☐	14. 近隣住民へ経過を説明する
	☐	15. 相談者（苦情者）の訴えに対応し、支援を継続していることへの理解を促す
	☐	16. 樹木の伐採時、相談者（苦情者）の敷地への立ち入り作業の了承を得る
	☐	17. 近隣住民がほかに活用可能な相談窓口を紹介する
	☐	18. 地区担当の民生委員へ、安否確認のための協力を依頼する
家屋および家屋周辺状況等の現地確認	☐	19. 敷地の樹木の伐採、堆積物の除去などの経過を確認する
関係機関との連携	☐	20. 関係機関と、支援の経過および結果について情報を共有する
	☐	21. 本人の状況の変化に合わせて、担当部署に早期につなぐ
	☐	22. 担当者の引き継ぎによる支援の滞りを避ける
	☐	23. 緊急に支援する状況についてあらかじめ検討しておく
	☐	24. 家屋侵入による安否確認を行う場合には警察と消防へ依頼する
	☐	25. 本人の生活維持のためのサービスや制度を再検討する
	☐	26. 生活上改善した部分を維持できるように、支援を検討する